

■沿線への企業・物流施設の立地 別紙3

～沿線地域の開発で新たに約3,000人の雇用創出～

- ・E1A新名神高速道路の沿線にある茨木市彩都中部地区は、一大物流拠点として整備が進められており、新たな雇用(約3,000人)が創出されています。
- ・沿線には、他にも物流施設等が進出、計画されており、E1A新名神高速道路が整備されることにより、更なる物流の円滑化、雇用の増加などが期待されます。

◆茨木市 彩都中部地区における物流施設の進出状況

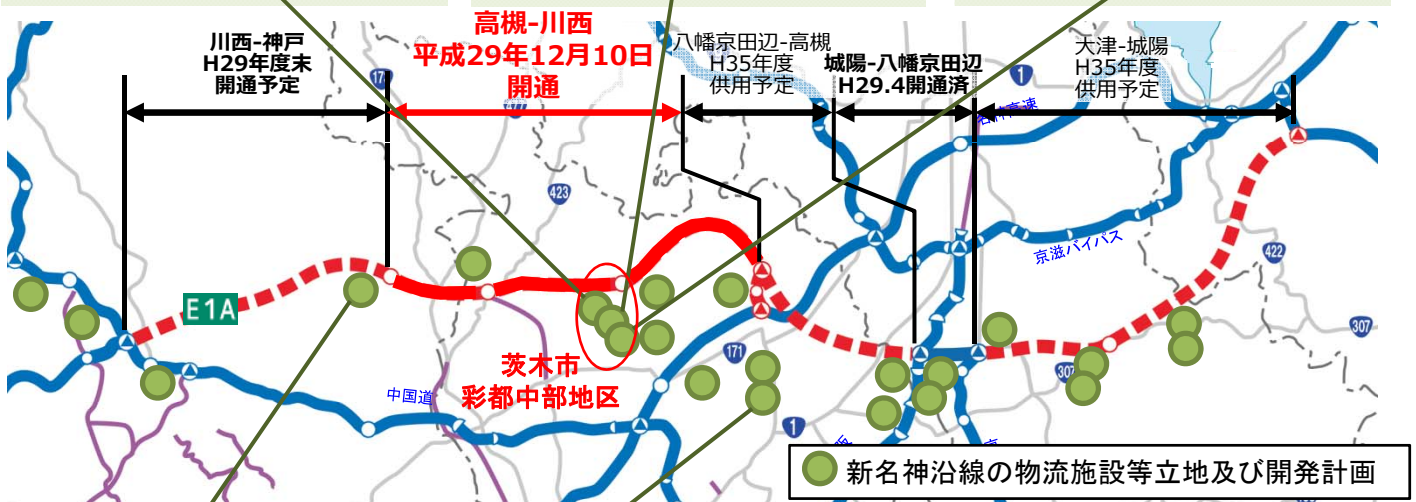
①榊万代(約9.5ha)
彩都物流センター
立地時期:H28.7
従業員数:約600人



②プロロジス(約8.0ha)
プロロジスパーク茨木
立地時期:H28.9
従業員数:約1,000人



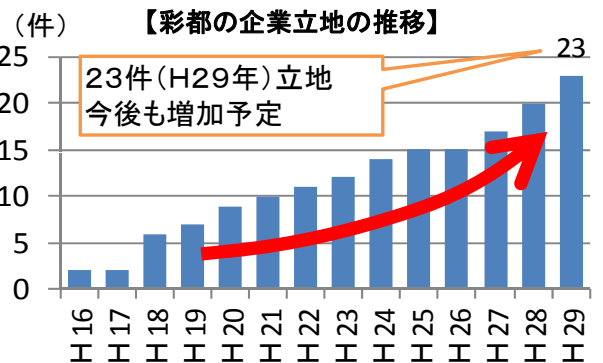
③三井不動産(約10.8ha)
ロジスティクスパーク茨木
立地時期:H29.9
従業員数:約1,200人



◆猪名川町産業拠点地区
開発面積:約46ha
造成着手:H29.6



◆野村不動産(約3.5ha)
Landport高槻
立地時期:H29.6



出典:彩都建設推進協議会HPより作成

- ・物流施設の新設にあたり、24時間稼働が可能なこと、雇用が確保できること、高速道路へのアクセスを重点に検討しました。
- ・新名神の高槻ICが開通すると、名神の高槻ICや大山崎JCT・ICに比べアクセスが向上します。
- ・それにより、テナント企業の物流効率化や輸配送エリアの拡大が可能となり、更なる企業活動の活性化が期待されます。(野村不動産株)



出典:ヒアリング調査(NEXCO西日本)